

## 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

### 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	江南市立古知野南小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	アセスメントを活かした通級指導

#### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

##### 1 活動に至る経緯

児童一人一人の課題に応じて教材を用意し、指導する通級指導において、児童の実態を把握するためのアセスメントは必須事項である。客観性の高いアセスメントを実施し、効果的な指導を行うための力が通級指導教室担当者の専門性だと考えている。

2022年2月に発表された日本版 WISC-Vは、WISC-IVに比べ、知能に関して精密なアセスメントができるようになった。この結果を活かすことで、通級による指導の充実が図れると考えた。また、通常の学級に在籍する児童についてもアセスメントを行うことで、児童の特性を活かした指導方法や教材を、通常の学級の担任に提案し、児童のまなびの環境を整えることができると考えた。

##### 2 活動・研究の目的

- ・ 本人の困り感の背景要因を客観的なアセスメントによって明確にする。
- ・ アセスメント結果を踏まえ、通級による指導の時間の活動内容及び教材を精査する。
- ・ アセスメント結果を学級担任に説明し、通常の学級でより安心して活動ができるための支援を提案する。
- ・ 保護者にアセスメント結果を提示し、学級で対応すること、通級指導のできることを説明すると共に、必要に応じて医療機関や福祉機関を紹介する。

##### 3 活動内容

- (1) 対象者 通級による指導を受けている小学1年生児童  
(入学前に、ひらがなの読み書き、数字の読み書きができないと相談あり)

##### (2) 活動時期及び内容

##### 4月 児童観察

- ・ 一斉指導での様子を観察、授業者（担任、T・T担当）との情報共有
- ・ 全体への指示理解不足、書字速度の遅さを確認

##### 5月 通級による指導の開始

- ・ 会話の幼さ、こだわりの強さを確認
- ・ 理解力の弱さが見られ、知的発達の遅れの可能性を考える

## 9月 URAWSS IIを実施

- ・ 検査結果【資料1】を踏まえ、通級指導教室では読み上げの支援を行うと共に、「デージー教科書」を紹介する。

## 10月 通級指導教室授業参観

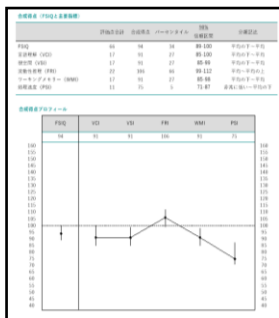
- ・ 保護者は、活動の様子から、処理速度の遅さや理解の弱さを感じた
- ・ 福祉サービスを説明し、巡回相談の承諾を得る

## 11月 WISC-Vを実施・巡回相談

- ・ 発達支援の専門員に、一斉授業の様子と通級による指導の様子を見てもらう
- ・ WISC-Vの結果【資料2】から書字速度の遅さの要因として、「目と手の協応動作の弱さ」が考えられるという指摘を受け、通級による指導の時間にビジョントレーニング【資料3・4】を取り入れる

資料1は、算数と国語の読み書き速度の検査結果を示す表です。算数では、25秒で23問正解、117問正解と記録されています。国語では、205秒で75問正解、152.9問正解と記録されています。表には具体的な計算問題や読解問題の例も記載されています。

資料1 読み書き速度の実態



資料2 検査結果



資料3 ダーツに取り組む様子



資料3 不規則に落ちる紙を捕る様子

## 4 活動・研究の成果

入学前の保育園訪問や保護者の相談内容から、知的な遅れの可能性も考慮して指導・支援を始めた。学習が進むにつれ、一斉指導での活動の難しさも見られ、保護者には医療機関や福祉機関への相談も勧めた。しかし、WISC-Vの結果から、知的な遅れがないことが分かり、教員の本児に対する認識を変えることとなった。現在は、学校生活に慣れ、本児のこだわりの強さも和らいでいき、ひらがなの読み書き、基礎的な計算は、処理速度が劇的に伸びているわけではないが、個別の声かけがあれば、一斉指導でスムーズに活動できている。また、「ピグマリオン効果」ではないが、「知的な力に問題がない」と教員が思って対応することで、本人の力が発揮しやすくなっているようである。

通級担当者としての専門性を高めるために、WISC-Vの第一人者、大六一志氏の研修会に参加した。マニュアルを読むだけでは分からない点についても学ぶことができた。特に、外国にルーツをもつ児童の検査結果の解釈については、認識を正すこととなった。実際、外国にルーツをもつ児童の検査も実施したが、現状の要因と対応について、修正する必要ができた。

受講を希望した、WISC-Vの実技講習会は残念ながら抽選に漏れ、参加できなかった。今年度は、力不足の部分は巡回相談を利用することで補うことができたが、専門性の向上のために、次年度以降も実技講習会への参加を希望していきたい。

アセスメントを実施するのは限られた授業時間の中では難しいことは否めないが、児童の課題とその背景要因を明確にすることで対策を練ることができる。児童のまなびの環境を整えるには、アセスメントは大切であるので、通級担当者として、今後も、アセスメントについて研鑽を深め、校内のまなびの環境を整えていきたい。